

講義科目名称： トレンド予測の手法

授業コード： 13208070

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期集中	1・2・3・4	1	選択
担当教員			
家安 香／手塚 伸			
区分	科目番号	曜日・時限	
添付ファイル			

対象学生	全学部、山梨大学生、科目等履修生（社会人・高校生等）、特別聴講生（大学コンソーシアムやまなし等）		
授業の目的	マーケティングの入口で必要となる未来予測は、極めて重要なステップですが、VUCAの時代にあつて、これを的確に捉えることは極めて難しいものの、重要かつ必須の課題となっている。 この演習を通じて、不確実な時代にあつても、中長期的なトレンドを如何に予測していくか、これをもとにどのような未来戦略を描いていくかに関し、有効な知識とスキルを習得することを目的とする。		
学士力A	技法力		
学士力A（ウェイト）	○		
学士力B	思考力		
学士力B（ウェイト）	◎		
学士力C	実践力		
学士力C（ウェイト）	○		
学士力D			
学士力D（ウェイト）			
学士力E			
学士力E（ウェイト）			
学士力F			
学士力F（ウェイト）			
学士力G			
学士力G（ウェイト）			
学士力H			
学士力H（ウェイト）			
到達目標No.1	トレンド把握・未来予測に必要な知識を取得し、その必要性・重要性について理解できる。		
到達目標No.1（学士力対応）	技法力		
到達目標No.2	まずは身近な山梨の可能性、未来について客観的に評価できる。		
到達目標No.2（学士力対応）	思考力		
到達目標No.3	未来予測を行うための仮説を立て、アプローチするための基礎的な思考力、表現力を備える。		
到達目標No.3（学士力対応）	思考力		
到達目標No.4	市場等を見ながら常に的確なりサーチを行い、的確な方向性を見出す意識を持つ。		
到達目標No.4（学士力対応）	実践力		
到達目標No.5			
到達目標No.5（学士力対応）			
成績評価の方法	評価の方法	割合（%）	評価の基準
	目標No.1	20%	最終課題（未来予測に関する理解度）により評価する。

	目標No. 2	30%	最終課題（身近な環境・未来の姿に関する客観性）により評価する。
	目標No. 3	30%	最終課題（思考力・表現力）により評価する。
	目標No. 4	20%	最終課題（リサーチ力・姿勢）により評価する。
授業の方法	講義は基本対面のアクティブラーニング形式で行う。講義とディスカッションで実践力を養うとともに、最終的には自身の未来予測シートを作成する。		
受講に際して・学生へのメッセージ	日欧の企業現場で活躍されるとともに、大学でも教鞭をとる講師による実践的な演習です。なかなか得られる機会ではありませんので、積極的な参加を期待します。質疑応答のみならず、授業外学修として、担当教員、ゲスト講師との対話を歓迎します。		
教科書	テキスト	適宜プリントを配布します。	
	参考書	トレンドユニオンが発行するトレンドブックを用いる。	
授業計画の概要	1		
	タイトル	(5/10土) 未来予測の必要性	
	授業内容	なぜ未来予測が必要なのか。自分はどんなスキルを持っていて、どんなスキルを手に入れることでどのような未来をきり開けるのか。各自の持っている可能性をディスカッションしながら2日間の目標を設定する。	
	事前学習	事前に以下のサイトを閲覧しておく。 山梨県産業技術センター富士技術支援センター <a href="http://shikenjyo.blogspot.com/2016/05/blog-post.html">http://shikenjyo.blogspot.com/2016/05/blog-post.html</a> 多摩美術大学素材研究室 <a href="http://www2.tamabi.ac.jp/cgi-bin/cmtel/?cat=11">http://www2.tamabi.ac.jp/cgi-bin/cmtel/?cat=11</a>	
	事後学習		
	2		
	タイトル	(5/10土) 未来を知るには過去から	
	授業内容	未来を知るにはまずは過去から。どんなことがあって、それが何に繋がっているのか。過去に思い描いた未来と今は何が違うのかについて講義とディスカッションとで学ぶ。	
	事前学習	未来予測においてなぜ過去が重要なのか考えておく。	
	事後学習		
	3		
	タイトル	(5/10土) 身近なものの価値を再発見する	
	授業内容	山梨の産業、土地、価値、さらに日本の良さなど身近なものの価値の再発見を試みます。これをもとに、海外、山梨から見つめなおします。知っているようで知らないものの中から何に関心あるかをターゲットにして、講義を主体にしながらディスカッションする。	
	事前学習	山梨県で価値あるものは何か考えておく。	
	事後学習		
	4		
	タイトル	(5/10土) 得意なもの・興味があるものは	
	授業内容	前3回の講義を受けて、何が得意で何に興味があり、どの分野に力が発揮できそうかをそれぞれ発表します。また、参加者からの相互のアドバイスを引き出すことでコンサルティング視点を学ぶ。併せて、2日目の理解を深めるための宿題を出す。	
	事前学習		
	事後学習	提示された課題に取り組む。	
	5		
	タイトル	(5/11日) 自分たちの感覚を客観視するには	
	授業内容	消費も、歴史の変化もそこには愛と嫌悪がありました。自分たちの感覚を客観視できるようなものの見方を講義方式で学び、そのうえでディスカッションする。	
	事前学習	消費や歴史を客観視するとはどういうことなのか考えておく。	
	事後学習		
	6		
	タイトル	(5/11日) 広告等の変化のパターンについて	
	授業内容	流行り廃りがつきものの広告、伝達。そのパターンに何か秘密はあるのか？その形の変化はどのように起きているのか？講義とディスカッションで学ぶ。	
	事前学習	広告等はなぜ変化するのかについて考えておく。	
	事後学習		

	7								
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>(5/11日) 未来予測実践①</td> </tr> <tr> <td>授業内容</td> <td>数人でグループを作り、仮説をたてて未来予測を行います。その中で難しい部分、独自で辿り着いた方法論などをお互いに発表し、未来予測への理解を深める。</td> </tr> <tr> <td>事前学習</td> <td>グループワークで作成したものの問題点などを洗い出しておく。</td> </tr> <tr> <td>事後学習</td> <td></td> </tr> </table>	タイトル	(5/11日) 未来予測実践①	授業内容	数人でグループを作り、仮説をたてて未来予測を行います。その中で難しい部分、独自で辿り着いた方法論などをお互いに発表し、未来予測への理解を深める。	事前学習	グループワークで作成したものの問題点などを洗い出しておく。	事後学習	
タイトル	(5/11日) 未来予測実践①								
授業内容	数人でグループを作り、仮説をたてて未来予測を行います。その中で難しい部分、独自で辿り着いた方法論などをお互いに発表し、未来予測への理解を深める。								
事前学習	グループワークで作成したものの問題点などを洗い出しておく。								
事後学習									
	8								
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>(5/11日) 未来予測実践②</td> </tr> <tr> <td>授業内容</td> <td>各自が自分の持ち味や得意なものを生かして未来予測をしていく。その過程で今後手に入れるべきスキルや、実践していきたいと考える分野についての気づきを発表し、自身の未来像、これからやっていくことへの意識、未来予測の基礎的アプローチが実感できるシート（冊子）等を作成する。</td> </tr> <tr> <td>事前学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事後学習</td> <td>自身の未来予測シートを作成する。</td> </tr> </table>	タイトル	(5/11日) 未来予測実践②	授業内容	各自が自分の持ち味や得意なものを生かして未来予測をしていく。その過程で今後手に入れるべきスキルや、実践していきたいと考える分野についての気づきを発表し、自身の未来像、これからやっていくことへの意識、未来予測の基礎的アプローチが実感できるシート（冊子）等を作成する。	事前学習		事後学習	自身の未来予測シートを作成する。
タイトル	(5/11日) 未来予測実践②								
授業内容	各自が自分の持ち味や得意なものを生かして未来予測をしていく。その過程で今後手に入れるべきスキルや、実践していきたいと考える分野についての気づきを発表し、自身の未来像、これからやっていくことへの意識、未来予測の基礎的アプローチが実感できるシート（冊子）等を作成する。								
事前学習									
事後学習	自身の未来予測シートを作成する。								
実務経験のある教員による授業科目の概要	<p>家安香客員教授が、国内外の企業におけるトレンド分析、未来予測に携わってきたキャリアをベースに、理論と応用、実践方法などを受講者と対話しながら演習を進める。（以下、家安客員教授略歴等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エデルコートイースト株式会社・トレンドユニオン 代表取締役</li> <li>・同社は、パリに本社を置く、商品開発の未来予測などを得意とするデザイン、コンサルティング会社</li> <li>・関西学院大学法学部を卒業後、ブルガリジャパン、株式会社フェリシモを経て、2004年よりオランダのデザインアカデミーアイントハーヘンでデザインを学ぶ。</li> <li>・卒業後、ロンドンのインテリアデザインオフィスstudio ilse（スチューディオ・イルス）でのプロジェクトを経て、同年6月よりパリのトレンドユニオン本社で勤務</li> <li>・国際企業のブランディングを担当。2008年2月よりトレンドユニオン日本支店代表</li> <li>・2010年にEdelkoort East株式会社を立ち上げ、ファッション、ライフスタイルなど幅広い日本企業に対してのトレンド発信やデザインコンセプト作り、ブランディングやデザインワークを行っている。</li> <li>・2018年よりやまなし産業支援機構の山梨県中小企業経営革新サポート連携拠点（※）でプロジェクトマネージャーとして活動</li> </ul> <p>※（公財）やまなし産業支援機構が山梨県から受託している中小企業支援のための支援コンソーシアム事業。複雑化する中小企業の経営革新課題に対応する専門家を12名組織し、課題に適したチームを組み伴走支援を行う。10年来の支援実績が豊富にある。</p>								
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、両日とも9:00～16:20の時間帯に山梨県立大学飯田キャンパスで実施する。</li> <li>・未来予測、トレンド予測の第一線で活躍されている講師とのアクティブラーニング形式の演習です。VUCAといわれる予測困難な時代にあって、感性や知識などを総動員して、あるべき未来を提示できるスキルの習得に努めること。</li> <li>・参加者間の考え方の多様性の相互理解、対話の重要性等を同時に学ぶように努めること。</li> <li>・他大学や社会人等とともに学ぶ「PENTAS YAMANASHI」の科目です。</li> </ul>								